



世界のリゾートが京都に集結

いよいよ来年に迫った東京オリンピックと、二〇二五年の大阪万博開催決定が追い風となって、国内の宿の需要はますます高まるばかり。新規開業は増加の一途を辿っている。世界中から観光客が押し寄せる京都もまたしかり。街には、昔の税制の関係から間口が狭く、奥へと長い「うなぎの寝床」と呼ばれる敷地が多く、その跡地に建てられるホテルもその形状を活かした造りが多く見受けられる。表玄関から裏まで、小さな坪庭を挟んで、外光を取り入れられているのも昔の町家の名残である。「ENSO ANGO」(P102参照)のように、一棟の間口の土地に合ったサイズのホテルをいくつも分散させて造るホテルもあれば、数軒分の土地を合わせて造られているホテルもある。いずれも小さな敷地を活かしながら、快適な設備を整えたスモールラグジュアリーホテルが増え続けている。その一つ、「ホテルカンラ 京都」は、京都タワーに近く、東本願寺という古刹の並びにオープンして、二〇一六年には増床リニューアルを行い、コンパクトなダブルルームからデラックス、坪庭に開放的なアウトバスのあるザ・カシラスイートまである。そこには、カジュアルなイタリアンダイニングも。こうしたホテルが増えると、宿泊者だけでなく、地元客も訪れる楽

進化する

スモールラグジュアリーホテル



■ ホテルカンラ 京都

専修学校だった建物をリノベーションし、2010年開業、2016年に増床リニューアル。オリジナルの京焼のタイルや洗面台、西陣織のフットスロー、京唐紙の襖など、京都や日本文化を感じる客室が68室に。カフェ&ショップ、「鉄板料理花六(はなろく)」「THE KITCHEN KANRA」「Kanra spa」を併設。京都市下京区北町190 075-344-3815 www.hotelkanra.jp

text by Hiroko Nakano

とに大きく貢献していくことだろう。町家レストラン、町家ギャラリーなど、町家と名の付く店が増えたことから、景観が守られ、旅人に喜ばれていることが京都人としては嬉しい限りだ。

世界ブランドの「ハイアットリージェンシー 京都」(P90参照)「フォーシーズンズホテル京都」(P86参照)に続いて、いつかできると噂が飛び交っていた「アマン 京都」(P11参照)がついに今秋、開業することが決まった。日本で三日のアマンは、広大な敷地内にわずか二六室という、究極のラグジュアリーホテル。世界のラグジュアリーホテルが集まっているのは、歴史遺産がひしめく京都が魅力的だからなのかもしれない。

そしてもう一つ、二〇一六年に着工した「パークハイアット 京都」もまた今秋開業すると聞いた。清水寺や高台寺といった古刹が立ち並ぶ東山区の名料亭「山荘 京大和」の跡地に建設中。世界的なラグジュアリーホテルの要素を取り入れながら、二寧坂に面した街並みや周辺との景観に配慮した低層建築で、七〇室ほどの規模となる。江戸時代から続く料亭時代の歴史的建築物や庭園などは保存・復元し、伝統と新しい文化を融合させたホテルになるという。小さな町家のゲストハウスから、世界ブランドのホテルまで、多彩な宿を拠点に京都の旅を楽しんで欲しい。

■ 鈴 Rinn Gion Kenninji

京都を代表する花街・祇園にできたゲストハウス。窓から建仁寺を望む部屋もある。全20室。「鈴 Rinn」とは、株式会社リアルが運営するゲストハウスブランド。市内に50棟(2019年2月現在)展開し、高級京町家タイプ、町家タイプ、ホテルタイプがある。京都市東山区博多町69-1 075-606-5178(宿泊予約) rinn-kyomachi.com



京都の宿 あれこれ

多彩でおもしろい!

■ アマン 京都

金閣寺の近くに今秋開業
(P11参照)
www.aman.com

いよいよ来年に迫った東京オリンピックと、二〇二五年の大阪万博開催決定が追い風となって、国内の宿の需要はますます高まるばかり。新規開業は増加の一途を辿っている。世界中から観光客が押し寄せる京都もまたしかり。街には、昔の税制の関係から間口が狭く、奥へと長い「うなぎの寝床」と呼ばれる敷地が多く、その跡地に建てられるホテルもその形状を活かした造りが多く見受けられる。表玄関から裏まで、小さな坪庭を挟んで、外光を取り入れられているのも昔の町家の名残である。「ENSO ANGO」(P102参照)のように、一棟の間口の土地に合ったサイズのホテルをいくつも分散させて造るホテルもあれば、数軒分の土地を合わせて造られているホテルもある。いずれも小さな敷地を活かしながら、快適な設備を整えたスモールラグジュアリーホテルが増え続けている。その一つ、「ホテルカンラ 京都」は、京都タワーに近く、東本願寺という古刹の並びにオープンして、二〇一六年には増床リニューアルを行い、コンパクトなダブルルームからデラックス、坪庭に開放的なアウトバスのあるザ・カシラスイートまである。そこには、カジュアルなイタリアンダイニングも。こうしたホテルが増えると、宿泊者だけでなく、地元客も訪れる楽

しみが増える。ホテルが開業した数だけ街のダイニングも増えて、京都の食の業界も大いに賑わっていると言ってもいいだろう。

古い町家が取り壊されて新しいホテルが建てられる一方で、保存していくことを目的とした京町家の宿泊施設も増えている。昨年四月、京都に本社を構える下着メーカーの株式会社ワコールが京町家をリノベーションした宿泊施設「京の温所」を開業して話題となった。これは社員の提案から実現したプロジェクトで、長年、住居として利用されてきた京町家の価値・特性を活かしながら、住空間としてリノベーション。宿泊施設として運用後、家主に戻して、その後は住居として継続利用されるという。

また町家は、ゲストハウスとしての活用や物件売買も盛んに行われている。今、急成長している京都の株式会社リアルが運営する「鈴 Rinn」は、今年だけでも町家物件が一棟、ホテル一棟のオープンを予定している。それぞれの町家オーナーから、一棟貸しなどの宿泊施設としての運営を任されている。

このように、老朽化が進んで、持ち主が維持できなくなったり取り壊されていく町家が多い中、維持保存プロジェクトの一つひとつが町家の維持保存と、京都の文化遺産を守るこ

増え続ける京町家の宿

■ 京の温所 釜座二条

建築家の中村好文とミナベルホネの皆川明が手がけた京町家宿。推定築150年の京町家の建物をリノベーション。キッチン&ダイニング、通り庭の吹き抜けが心地良く、高野槇の香りが広がるバスルーム、樹齢100年の古木をのぞむ庭のライブラリーも。他にも「京の温所 岡崎」「京の温所 御幸町夷川」がある。京都市中京区釜座通二条下松屋町690-2 075-556-0156(10:00~17:00) www.kyo-ondokoro.kyoto

